

森林環境教育への取組について

朝日庄内森林生態系保全センター 主事 加藤 諒介

1 はじめに

朝日庄内森林生態系保全センターでは、平成19年度より、酒田市の西荒瀬保育園で行われているみどりの保育園の支援を行っています。また、平成18年度より、朝日自然塾連絡協議会構成団体の協力を得ながら、朝日山地森林生態系保護地域の環境を後世に保全・継承するための人材育成の取組の1つとして、朝日自然塾を実施しています。

2 取組・研究方法

森林環境教育活動を行う上で、「現地確認を行い、危険箇所、危険な動植物の確認と対処をすること」「複数人で使用道具の管理を行い、不具合、破損がないか確認すること」「マスク着用や体温測定、アルコール消毒など、新型コロナウイルス対策を万全に行うこと」を徹底しました。また、現地確認や活動の準備を行う際は、チェック表を活用し、チェック漏れ等を未然に防ぎました。

イベント安全確認チェック表（下見等）	
朝日庄内森林生態系保全センター	
チェックポイントと対策	
作業地、通歩歩行及び滑落危険箇所等の安全確認	
<input type="checkbox"/>	足場の悪いところ 一面木、石、根などつまづきやすいところや、穴、崖、滑りやすいところなどを確認し、テープ等の目印を付けて近寄らないか、注意喚起する。危険な場合は除去するなどの対策をとる。
<input type="checkbox"/>	通歩などの障害物 ツサや小枝は、はわて目に当たりやすいので見つけたら除去して通歩の道の方に寄せる。
<input type="checkbox"/>	活動範囲の設定 作業区域、散策コース、見渡せる範囲、声が届く範囲など活動エリアをみながら確認する。
枯れ枝など危険箇所の安全確認	
<input type="checkbox"/>	枯れ木 一頭上の枝の落下する可能性があるため近寄らない。特にスギの枯れ枝は高所から落ちてくるので注意する。
<input type="checkbox"/>	倒木 一危険な場合は近寄らないか、事前に切っておく（大木は専門家に依頼）。
<input type="checkbox"/>	目の高さで突き出た枝 一森を歩くときは、前の人の払いのけた枝が目をつく場合があるので注意するよう促す。特に危険な場合には管理者の了解を得て除去する。
蜂、マムシ、毒草等の確認及び注意喚起のための表示等	
<input type="checkbox"/>	かぶれる植物（ヤマウルシ、ツタウルシ、ヌルズナなど） 一日の当たるところに生えていることが多い。危険な場合は除去又は目印のテープ表示で注意喚起する。
<input type="checkbox"/>	有毒植物（トリカブト、マムシグサなど） 一実物を見せて注意を促す。
<input type="checkbox"/>	とげ植物（サルトリイバラ、モミジイチゴ、イラクサなど） 一危険な場合は除去又は実物を見せて注意を促す。
<input type="checkbox"/>	へび 一道路、日当たりの良いブロックの上、岩の間の倒木の陰や藪にひそんでいるので表示をして近寄らないか、下草刈りをして遊みにくい環境に変える。同じ場所にいることがあるので注意する。
<input type="checkbox"/>	蜂の巣 一ブーン、カチカチ音がすれば蜂が飛び回っています。巣が近くに無いか注意。巣があった場合は危険なので近づかないように表示するか、業者等に除去を依頼する。
<input type="checkbox"/>	ケムシ 一毒から害にかけて、食糧となるバラ、サクラ、カエデ、ツバキなどにつきやすい。目印を付けたりして注意を促す。
活動時に最低限必要な持ち物と服装	
<input type="checkbox"/>	指導者の持ち物 一救急セット、笛、無線、録音機、活動に必要な準備品
<input type="checkbox"/>	参加者の持ち物 一水筒、タオル（虫刺され防止兼用）、カッパ（上下別タイプ）、ビニール袋（拾い物など）、筆記用具、着替え
<input type="checkbox"/>	服装 一長袖、長ズボン、帽子、軍手、長靴（紫外線、注意生物対応、ケガ防止、日射病から体を守る）。
活動フィールドにおけるその他確認	
<input type="checkbox"/>	休憩・水分補給タイミング・場所の確認（暑いときは30分に1回程度休憩し水分補給、飲み過ぎ腹痛に注意）。
※参考文献 「森からひろがる どんぐりの森活動プログラム集 一小学校中学校での環境学習に向けて」上巻	

図1 イベント安全確認チェック表

準備段階のチェック表	
朝日庄内森林生態系保全センター	
チェックポイント	
<input type="checkbox"/>	プログラムの目的・日程をスタッフ全員で確認しましたか。
<input type="checkbox"/>	各アクティビティ（活動・行動）のリスクの大きさをスタッフ全員が把握しましたか。
<input type="checkbox"/>	地図及び現場で活動範囲を確認しましたか。
<input type="checkbox"/>	リスクの多い場所をスタッフ全員が把握しましたか。
<input type="checkbox"/>	参加者についての必要な事前情報（体調・服装・持病など）をスタッフ全員で共有しましたか。
<input type="checkbox"/>	天候・気象状況の予報を確認しましたか。
<input type="checkbox"/>	スタッフ間の役割分担を確認しましたか。
<input type="checkbox"/>	緊急時の行動のリハーサルを行いましたか。
<input type="checkbox"/>	衛星携帯電話の通信状況を確認しましたか。
<input type="checkbox"/>	救急薬品の携行を確認しましたか。
<input type="checkbox"/>	必要な用具・装備品の最終確認をしましたか。
<input type="checkbox"/>	スタッフの体調・健康状態を確認しましたか。
※参考文献 「自然とのふれあい活動における安全対策マニュアル策定調査報告書」平成18年3月	
特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会	

図2 準備段階のチェック表

(別紙2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのチェックシート 参加者用

イベント名								
開催月日								
参加者	代表者電話番号							
	今朝の体温	体調は悪くありませんか？（発熱や咳、のどの痛み、だるさなど）	過去2週間以内に、新型コロナウイルス感染症の陽性と診断された方が身近にいませんか？		過去2週間以内に、感染拡大している地域や外国を訪問していませんか？		住所	連絡先（電話番号）
氏名		はい いいえ	はい いいえ	はい いいえ	はい いいえ			
1								
2								
3								
4								

※ 取得した個人情報は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に必要な範囲の目的のみに利用するものとし、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律に定める場合を除いて、ご本人の同意なしに、利用目的外の利用は致しません。

図3 新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのチェックシート

(1) みどりの保育園

みどりの保育園では、「きのこの駒打ち体験」「クロマツ探検隊1（サギの営巣観察等）」「まつぼっくりのツリー作り」の3つのイベントに参加しました。「きのこの駒打ち体験」では、ドリルでほだ木に穴開け体験をした後、各班に分かれて駒打ちを行いました。「クロマツ探検隊1（サギの営巣観察等）」では、職員でクロマツや周辺の野草・野花の説明しながら保育園に隣接している国有林内を探検し、望遠鏡と双眼鏡を使用してサギの営巣を確認しました。「まつぼっくりのツリー作り」では、職員から今回使用する松ぼっくりの説明を聞いた後に、モールやビーズを使って飾り付けを行いました。



写真1 きのこの駒打ち



写真2 クロマツ探検隊

(2) 朝日自然塾

朝日自然塾では、令和4年11月までに「初夏の大井沢で自然体験」「みんなで歩こうタキタロウへの道」「プロが教えるイワナ釣り」「森に入って森の営みを探そう」の4つのイベントを計画し、うち3つが開催、「初夏の大井沢で自然体験」が新型コロナウイルスの影響により中止となりました。湿原で水生生物などの捕獲や観察を行った後、講師の方から昆虫の標本の説明をしていただきました。なお、令和4年度の活動については、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し中止としました。7月上旬に行った「みんなで歩こうタキタロウへの道」では、講師の方と準備体操を行った後出発し、周辺の植生や歴史の説明を聞きながらゴールを目指しました。なお、令和4年度の活動については、目的地である大鳥池に通じる七ツ滝吊り橋の崩壊により、六十里越街道へルート変更を行い実施しました。7月下旬に行った「プロが教えるイワナ釣り」では、講師の方に餌の付け方や竿の振り方を指導してもらい、東大鳥川での溪流釣りや、釣堀での釣りを体験しました。その後は毛針作りや釣り針を狙った位置まで飛ばせるかのゲームを行いました。10月に行った「森に入って森の営みを探そう」では、山形大学農学部准教授の菊池先生より森林調査活動についての講義をしていただいた後に林内へ移動し、樹高測定やおみとおしの使用体験、クマ剥ぎ防止テープを巻く作業を行いました。



写真3 六十里越街道トレッキング



写真4 プロが教えるイワナ釣り

3 結果

みどりの保育園、朝日自然塾共に、取組後はアンケートを配布し、参加理由や意見などを調査しました。

(1) みどりの保育園

みどりの保育園全体についてのアンケートでは、「下見などをしっかり行っているの
で、園児達も安心して参加できる。」「内容が充実しているの園児達も毎年楽しみにして
おり、とても有意義な時間となっている。」といった感想をいただき、チェック表の活用

により、先生方からみてもとても安全に取り組めていることが分かりました。また、「隣接した国有林を利用した遊びを取り入れてはどうか。」や「まつぼっくりのツリーと一緒にリース作りに挑戦してはどうか。」といった今後の活動に関する意見もいただきました。

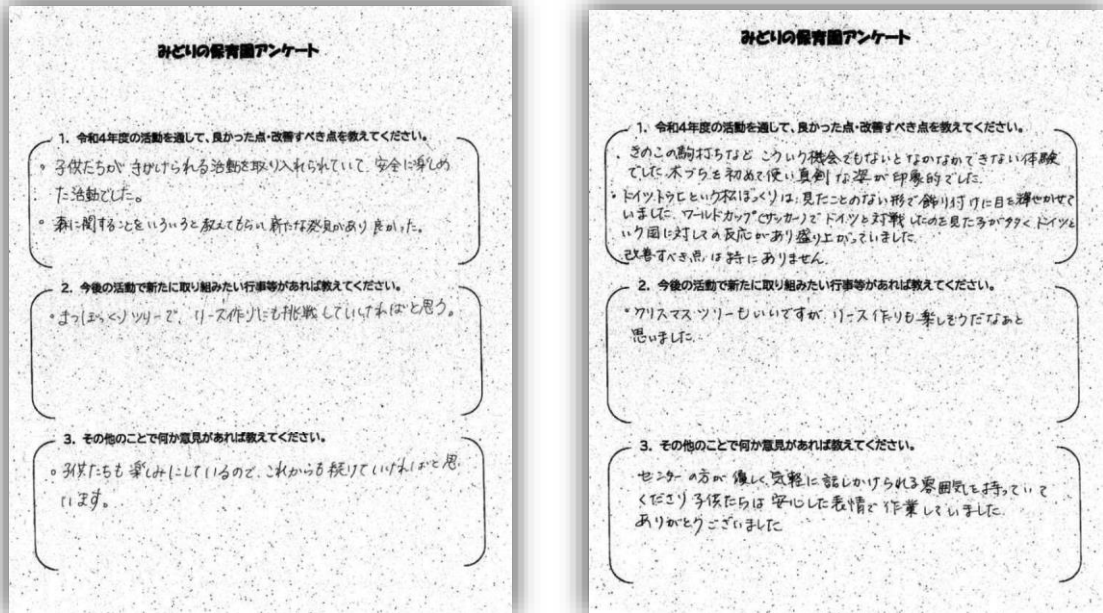


図 4、5 みどりの保育園アンケート（一部抜粋）

(2) 朝日自然塾

朝日自然塾についてのアンケートでは、「講師やスタッフの丁寧な指導により、初めてでもとても楽しむことができた」や、「体力的にとっても大変だったが、様々な動植物を見る事ができ、説明も分かりやすく有意義な時間になった」などの意見がありました。「森に入って森の営みを探そう」のアンケートでは、「森林学を受講しており、森林についてかなり興味をもっていた。当日は複層間伐を実施した箇所やブナとスギが混在している様子、クマ剥ぎの様子など普段の授業では触れきれない内容を学ぶことができたのでとてもよかったと思う。」といった感想をいただき、学校で森林学を学ぶ上で新鮮な体験になったことが分かりました。

一般参加型である「初夏の大井沢で自然体験」と「プロが教えるイワナ釣り」のアンケートでは、「またイベントに参加したい」と回答した方がそれぞれ 79%、100%と非常に高い数値となっており、またイベントに参加したいほど内容が充実していることが分かりました。

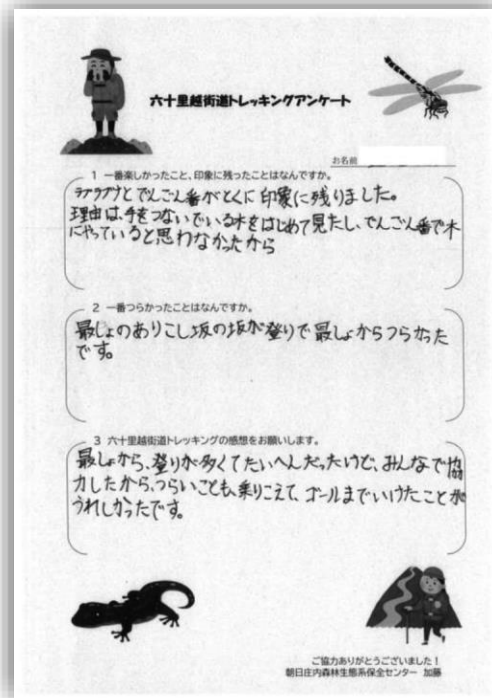
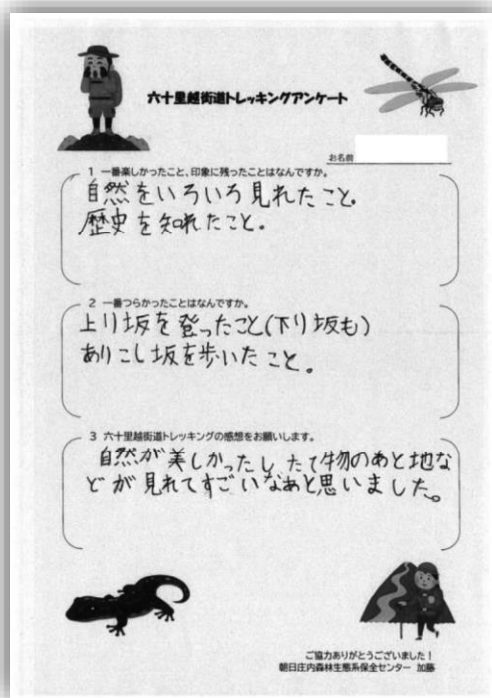


図 6、7 六十里越街道トレッキングアンケート（一部抜粋）

4 考察

令和5年度に向けて、みどりの保育園では、「駒打ちは単調な作業になってしまうため、集中力を保つ工夫をする」、「令和4年と同じ区域に巣があるか早めの確認、もし営巣されていない場合の代替案の考案」、「新型コロナウイルス感染症拡大の状況により臨機応変の対応」を課題として取り組んでいきます。

朝日自然塾では、「参加者の自然や森林に対する興味、関心を高めるための内容の改訂検討」、「新型コロナウイルス感染症拡大の状況により臨機応変の対応」を課題として取り組んでいきます。

5 まとめ

今後も、みどりの保育園では森林の知識や地域の海岸林の歴史を知ってもらうこと、朝日自然塾では、自然とのつきあい方や参加者の林業の関心を高める事を目標に関係者と打合せを行いながら取組を続けていきます。